

自分たちのことは自分たちで考える

入場無料・事前申し込み不要・定員 先着 100人

「いつもの暮らしの“あし”を考えるフォーラム 2020」



通勤や通学、通院、買い物など、いつもの暮らしの中で、自家用車以外の移動手段(=あし)を意識して考えたことはありますか。自分に合った“あし”を選ぶことができ、移動に困らないまちづくりはとても魅力的です。公共交通に加え、カーシェアやライドシェア等の新たなスタイルや自転車の活用、地域での助け合いなど、多様な移動手段の中から何を選ぶのか、一緒に考えてみませんか。

期日▼8月29日(土)

時間▼午後1時30分～3時30分(午後1時開場)

場所▼東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」

内容▼▽プロローグ…これまでの公共交通に関する取り組みと今後の戦略について ▽講演…「コミュニティ・カーシェアリングという選択肢 ～宮城県石巻市の取り組みから～」講師…吉澤武彦

さん(一般社団法人日本カーシェアリング協会 代表理事) ▽パネルディスカッション

その他▼当日の様子はYouTubeの東海村公式チャンネル(「東海村公式チャンネル」で検索)でリアルタイム配信します。

問い合わせ▼企画経営課プロジェクト推進担当 (☎282-1711 内線1335)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止・延期となる場合があります。

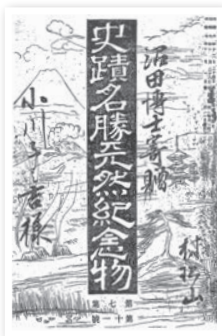
ふるさと歴訪
～歴史を再発見～

沼田頼輔博士と東海村

沼田頼輔博士は慶応3(1867)年4月に神奈川県清川村(旧宮ヶ瀬村)で生まれ、昭和9(1934)年11月に68歳で亡くなった博物学者です。

沼田博士は神奈川県立沼田師範学校(現横浜国立大学)を卒業後、同県内の小学校教諭を務める傍ら東京文理科大学(現筑波大学)の夜間部に進学し、歴史・理科・地理・鉱物・植物等の教員免許を取得しました。岡山師範学校や東京府立学校教員を務め、東京大学史料編纂所員を兼任し、後に鳥取県米子中学校教諭、岡山県西大寺高等女学校長などを歴任しました。その後、坪井正五郎(人類学者)らと日本考古学会を創設し、日本の考古学研究の基礎を作りました。さらに、大正14(1925)年に『日本紋章学』を刊行し、帝国学士院恩賜賞を受賞しました。

沼田博士と東海村との関係は、故沼田信忠氏(旧村松村)村長との交遊によるものと思われ、沼田博士は昭和7(1932)年8月後半に、村内で1週間ほど地質・植物・史跡・名勝などを調査し、同11月発行の『史蹟名勝天然紀念物』第七集第十一號(下写真)に「茨城縣村松村の天然紀念物と



【「史蹟名勝天然紀念物」第七集第十一號】

掲載されている3点の武人植輪の頭部写真は不鮮明であり、現存を確認することはできませんが、恐らく沼田小学校保管の植輪がこれに相当すると思われる。

國學院大學客員教授

茂木 雅博

史蹟名勝」という一文を紹介しています。内容は、村松の砂丘問題や阿漕浦神事、植物(ベニカヤラン・ヨウラクラン・シロヨモギ・オオウメガサソウ・ハマナス・ハイネズ)、古墳(権現山古墳等)について掲載しているほか、村松小学校保管の人物植輪3点の写真について、「近年村内の某氏が発掘して保管しており、それを拝見させていただいた」と記しています。また、明治33(1900)年3月、村松山虚空藏堂の被災に遭遇した際の出来事について、寺主と信徒の寄進によって旧観を取り戻したことに触れ、村松山虚空藏堂にゆかりのある真弓馬と宝船を紹介しています。

この記録によると、本村に関する考古学上の貝塚や石器時代の遺跡についての記述は見られませんが、「猿神社」を中心とした古墳について紹介しています。これは本村における考古学上の遺跡が日本考古学史上に登場する嚙矢といえるでしょう。また、